



農業の担い手不足の解消と フィルムコミッションで当別をPR

高松正人^{まさひと}さん(対雁・56歳)

映画やCMのロケーション地として、撮影の誘致活動や制作会社の手助けを行う「当別21夢倶楽部フィルムコミッション」(昨年6月に設立)会長。また、人手の少ない農家などへ農作業を請け負う「農業生産支援センター」(昨年2月に設立)代表。当別町出身。妻・京子さん、父・猛さんと母・ミサヲさん、子・隆美さんとその妻・忍さん、孫・美咲さん、歩さん、有香里さんの9人暮らし。

「実行委員会で昨年3月、自然の大切さや教育のあり方などについて映像化した文部省推薦の映画『森の学校』の上映会を町内で開いたとき、西垣監督と藤岱出身で制作スタッフの守実淳さんを迎えてのトークショーを実現したんです。その中で、"映画の続編を北海道で撮影したい"との話があり、"当別でフィルムコミッションを立ち上げ、ロケ隊の受け入れ体制をつくらう"と思ったんです」とFC設立のきっかけを話す高松正人さん。

フィルムコミッションは北海道が平成13年4月、映画やテレビドラマなどのロケーションを支援・誘致するための窓口「北海道ロケーションサービス」を設け、ロケ地に関する情報や撮影の際に必要な各種情報の提供などを行っているもの。制作者が個々の自治体に手間隙かけて調べていたことを同サービスが窓口となり、自治体などに照会し、制作者の意図に沿ったロケ関連情報などを総合的・迅速に提供することにより北海道での撮影件数を増やす役割を果たしています。

町民有志(民間)で設立したFCは、道内では当別が初めて。昨年4・5月にはロケーションの対応などについて勉強会をした後、6月には「当別21夢倶楽部フィルムコミッション(TFC)」と名称を決め、その代表に高松さんが

選ばれました。

TFCの初仕事は9月。「北海道ロケーションサービス」から"札幌近郊で、ロケ地に適する古い木造校舎を探してほしい"と

の依頼があり、日本テレビ系列の番組「火曜サスペンス劇場」の舞台として川下小学校を選び、撮影の協力を同校に依頼しました。撮影は俳優の六平直政さんのほか、西当別中学校の生徒がエキストラとなり、収録を終えました。

「何が起きるか分からない撮影現場では、"そつなく無事に成功させたい"気持ちが強く緊張していましたが、終わった時にはホッとしました。ロケの手順や状況を把握でき、今後の活動につながる第一歩になりました」と話します。

また、人手の少ない農家などの農作業を請け負う「農業生産支援センター」(昨年2月に設立・事務局＝町内の建設業者内)代表も務め、建設作業員の雇用確保や高齢農家に働き手を提供しています。

「田植えや除草作業など、11月末までには約50件の依頼がありました。農家に派遣する作業員や農業機械登録の中から、農家の要望に応じて作業員などを派遣するシステムですが、建設作業員の方々の中にはトラクターを運転できるなどの農業経験者が多いので是非、有効活用してもらいたいです」と話します。

さらに同センターでは、数戸の農家の協力を得ながら、生活習慣病の予防・腸の活性化・ダイエットに効果のある、オリゴ糖を多く含むキク科の植物「ヤーコン」の無農薬栽培を試験的に開始。今後は作付面積を増やし、当別の特産物として売り込む可能性を模索しています。11月には試食会を開き、「思っていたよりもくせがなく、食べやすい」など好評を得ました。

「FCや農業生産支援センターなどを通じて、少しでも住みやすく、そして住んでいる場所に誇りを持てる"まちづくり"の一役を担いたいです」と、ふるさと当別への想いを話します。

